

令和5年度
東日本大震災アーカイブシンポジウム
ー震災遺産と地域文化の継承を目指してー



これからのアーカイブに望むこと

ーポータルサイト「ひなぎく」の視点からー

電子情報部主任司書 井上 佐知子



国立国会図書館
National Diet Library, Japan

国立国会図書館と 東日本大震災アーカイブ



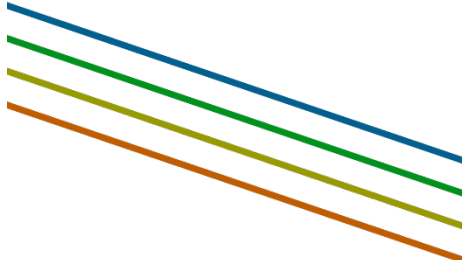
国立国会図書館は

- 我が国唯一の国立の図書館として、国会、行政・司法、国民に図書館奉仕を提供する
- 広く国内の刊行物を収集し、東京と関西の3施設で利用提供
- デジタル化した資料や電子資料をインターネットを通じて利用提供



国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称「ひなぎく」）

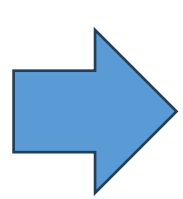
- 総務省と協力して各地のアーカイブが集めた東日本大震災に関する記録を一元的に検索・活用できるソフトウェアを開発
- 国立国会図書館が運営するポータルサイトとして、平成25年3月に公開
- 52機関の58データベースと連携し、約470万件のメタデータを検索可能
- 150万件の記録はインターネット上で閲覧・視聴可能



これからアーカイブを公開する 皆様をお願いしたいこと

- ① 使われるアーカイブ
- ② 続けられるアーカイブ
- ③ 繋がるアーカイブ

使われるアーカイブにするために



「デジタルアーカイブ活動」のためのガイドライン」

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_suisiniinkai/jitumusya/dai16/siryou1-1.pdf

◆ インターネット上で閲覧可能に

現物の記録もできるだけデジタル化して、現地に来なくてもインターネット上で閲覧・利用可能に

◆ メタデータを準備する

多数の記録の中から必要なものを探せるよう、メタデータ（名称、概要、作成者、作成日等）を作成する

◆ 二次利用が容易な利用条件

二次利用（転載等）が可能となる許諾を取得し、それをわかりやすく表示
メタデータについてもCC0等オープン化を

続けられるアーカイブにするために

◆ 後年度負担を意識して、無理のない規模で構築

- ✕ 記録が今後増えるから容量は大きく
- 収載する記録が増えたら順次容量を拡大
- ✕ いろいろな機能が使える複雑なデータベース
- 簡素なシステムで、資料の追加・修正等の作業負担が少ない

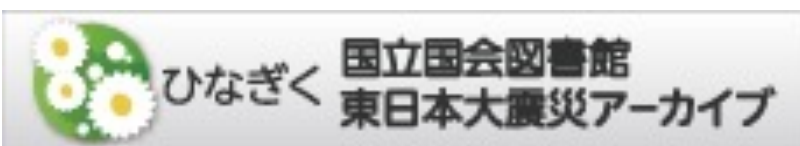
◆ 「震災アーカイブ」を構築することだけが震災記録を伝承する方法ではない

- ・ 郷土資料等の地域アーカイブに震災記録も含める
- ・ ホームページ等既にある広報の場で震災記録を提供

アーカイブを繋げるために



国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」



<https://kn.ndl.go.jp/>

東日本大震災をはじめとする地震災害に関する記録を、一元的に検索できるポータルサイト

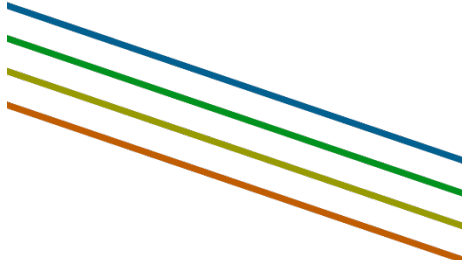


JAPAN SEARCH



<https://jpsearch.go.jp/>

書籍・公文書・文化財・美術・人文学・自然史/理工学・学術資産・放送番組・映画など、我が国が保有する様々な分野のコンテンツのメタデータを検索・閲覧・活用できるプラットフォーム



ご清聴ありがとうございました。

ご意見、お問い合わせは、hinagiku@ndl.go.jp まで

ジャパンサーチに関するお問い合わせは
<https://jpsearch.go.jp/contact> まで



この資料（国立国会図書館のロゴを除く。）はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。